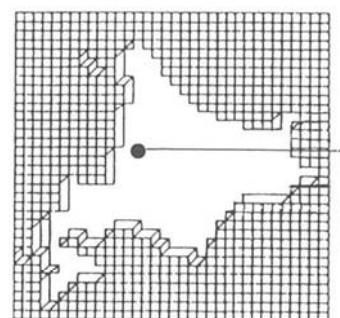


## 連載



# あのマチ・地域おこし活躍中 このムラ

No.9

## 北竜町の事例

### 地域の概要

今や、ひまわりの町として全国的に知られるようになった北竜町。EBC朝の連続テレビ小説のタイトル「ハッカツ」にこの町のひまわり畑が映しだされた影響も大きかったであろう。だが、この町で注目されるのはひまわりばかりではない。

この町は、これまで有機農業による米づくりや営農集団の成功などで大きな注目を集めてきた。

本連載では、これまで当研究所が地域振興計画に関わった市町村を紹介してきたが、今回はやや趣向を変え、本誌第5号と第15号の特集で登場した北竜町を、地域おこしの視点から紹介しつつ、その成功の秘訣を探ってみたい。

北竜町農業の概要  
北竜町の全耕地面積は約二、一  
五〇ha。昨年度の農畜産物販売高

人口は約三、〇〇〇人。世帯数  
約九〇〇のうち農家戸数は約四〇〇  
の純農村である。

ひまわりによる町おこし  
農協婦人部  
ひまわり普及活動

北竜町とひまわりの出会いは、  
一九七九年に行われた農協の海外

北竜町は、空知支庁管内の西北部、石狩平野の北部に位置している。石狩川の支流である雨竜川と暑寒別岳の間に広がる平野部と山間部があり、町の面積の約七割が山林である。

気候は、海洋型と内陸型の中間に達し、道内では比較的高温多湿である。冬の平均気温は-8°Cで、積雪量は平野部で一・五m、山間部で一・二mになる。

穀、メロン、そしてひまわりが栽培される。そこで、小麦や豆類は近年その割合が低下しており、逆にメロンを中心とする野菜は、割合が高くなる傾向で推移している。

その後ひまわりの作付けは増加し、八八年には約七〇haと全国一の面積に達した。この間、ひまわり油のみならず、ひまわりの種を用いた製品が次々と開発され、さらにひまわりの絞り滓は、町オリジナルの有機質肥料「ひまわりヘルシー」の原材料として利用されている。九〇年には「北竜町ひまわり高度利用検討委員会」が設置され、北海道開発局の協力も得ながら、ひまわりを利用した製品開発や薬理効果についての研究が進められている。

は、約四〇億円。作目別の内訳は、表一に示した通りである。

すなわち米が耕地面積で全体の約七一%、販売額でも全体の約八一%を占め、基幹作物となっている。その他に作付けされている主な作物としては、小麦、豆類、雑穀、メロン、そしてひまわりがあげられる。そこで、小麦や豆類は近年その割合が低下しており、逆にメロンを中心とする野菜は、割合が高くなる傾向で推移している。

その後ひまわりの作付けは増加し、八八年には約七〇haと全国一の面積に達した。この間、ひまわり油のみならず、ひまわりの種を用いた製品が次々と開発され、さらにひまわりの絞り滓は、町オリジナルの有機質肥料「ひまわりヘルシー」の原材料として利用されている。九〇年には「北竜町ひまわり高度利用検討委員会」が設置され、北海道開発局の協力も得ながら、ひまわりを利用した製品開発や薬理効果についての研究が進められている。

## 老若男女一丸の 「ひまわりまつり」

八七年に、それまで町内で行なわれていたいぐつかの祭を統合した「ひまわりまつり」が初めて開かれた。これは農協青年部が栽培したひまわり畑「ひまわりの里」を中心を開催される。七月下旬のオープニングセレモニーに始まり、町づくりグループ「竜トピア」による「ひまわり迷路」「ハーフマラソン」、コンサート、盆踊り大会など、一ヶ月の間に次々と行われる。また「ひまわりの里」のすぐ近くの北竜中学校では、九一年から世界中のひまわりを五〇種類も栽培・展示している。この時期、中学生達は夏休みであるにもかかわらず、観光客の案内や駐車場の整理などを行い、その働きぶりは親達に負けていない。

ここから少し離れたところには温泉、レストラン、ショッピングセンター、ホテルの機能を備えた「サンフラワーパーク」がある。もちろん観光客もやってくるが、

常日頃から、町の人々の憩いの場であり、社交場となつていて。今年度の「ひまわりまつり」は

二三万人もの参加者を数え、ひまわりを中心とした地域おこしは、大変な盛り上がりを見せていく。

## 有機農業による町おこし

### 農協青年部の消費者交流 と有機農業の取り組み

北竜町における有機農業の取り組みは一九七三年から見られる。はじめは、当時の農協組合長後藤三男八氏と現・農協組合長黄倉良氏による極くわずかなもので、その後しばらくは地道な取り組みが続く。だが、八〇年代後半の青年部による消費者交流活動をきっかけに全面的なものになつていいく。

青年部は七九年から毎年、町内消費者との交流会を行つていてが、八年から交流の範囲を広げ、コープさつぽろとの交流・PR活動を通じて消費者が安全な農産物を求めていることを認識するに至つた。九州グリーンコーブとの交流

も八七年から始まり、八八年から無除草剤米による提携が行われている。

こうした消費者との交流は、青年部を中心に、生協や米穀業者で構成する「いのちとふれ愛のネットワーク」という組織に発展した。そして八八年の農民集会では、それまでの農民集会が米価引き上げを中心課題としていたのに対し、農協青年部の提案により「安全な食糧生産に関する決議」が採択された。またこの年は、自然農法米生産組合も結成された。

八九年には、「ひまわりヘルシー」の供給と、全町的な有機栽培米の作付けが始まり、これは、「ひまわりライス」などのように、生協や業者毎に独自の銘柄で販売されている。

翌九〇年には、「安全な食糧の生産」という内容を盛り込んだ農業委員会憲章や土地改良区宣言が出され、町議会では「国民の命と健康を守る安全な食糧生産宣言の町」が宣言された。こうして、町をあげて有機農業に取り組む体制がつくられていく。

表-1 北竜町における主要農産物の生産・販売状況（1995年度）

品目	面積 (ha)	金額 (千円)
米	2,266	3,246,667
小豆	54	16,144
麦類	141	72,665
雑穀	103	20,399
メロン	56	363,277
かぼちゃ	13	8,298
スイートコーン	9	6,967
すいか	6	79,522
ひまわり	47	4,865
その他	455	48,648
畜産物		127,258
合計	3,150	3,994,710

註1)北竜町農協資料より作成。

2)米の販売金額は94年産持ち越しを含む。

## 広さから深さへ

表-2に示すように、北竜町の有機米にはいくつかの栽培体系がある。そのうち、最も割合の大きい「有機栽培米」は、これらの中で最も慣行栽培に近い内容である。

だが農協では、九三年に乗用除草機を導入し、無除草剤米の労力を軽減を図っている。また農協青年部では、九四年より有機・無農薬生産組合も結成された。

八九年には、「ひまわりヘルシー」の供給と、全町的な有機栽培米の作付けが始まり、これは、「ひまわりライス」などのように、生協や業者毎に独自の銘柄で販売されている。

そして、北竜町における有機農業の取り組みを知り、新規就農や研修を希望する者も多数現われてある。

そこで、北竜町における有機農業の取り組みを知り、新規就農や研修を希望する者も多数現われてある。

いる。

## 地域おこしを支えるもの

北竜町のこころした地域おこしは、町ぐるみの取り組みという点で共通している。北竜町には一八の営農集団があるが、図-1に示すように、この営農集団と農協、行政、各種協議会等の緊密な連携が、町ぐるみの取り組みを可能にしている。

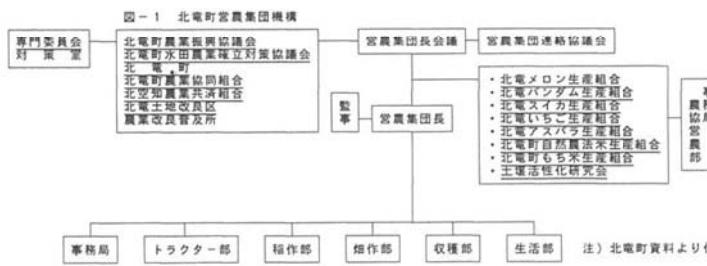
こうした協力体制は、高度経済成長に伴う雇用労働力不足問題の深刻化を打開する過程で培われてきた。構造改善事業や圃場整備事業が実施される中、当時の農協青年部では、農業の共同化について議論を繰り返し、営農集団体制確立の必要性にたどり着いた。

青年部はさらに、共同化先進地への視察研修を重ね、農協や行政へも働きかけていった。そして七年に、稻作の機械化共同利用体系を目指し、全町にわたる一八の営農集団が設立された。その後、耕作強化に伴い、総合的な産地形を目標とした地域性を重視した地域

営農集団へと再編し、現在に至っている。

ひまわりは農協婦人部から、有機農業は農協青年部からと、出発点は異なるが、その意志を町全体のものとしていく活力があることと、そうした意志を積極的に汲み上げ、町全体で支援する体制が確立していることが北竜町の強みである。

最近の取り組みでは、後継者・



(レポーター  
専任研究員 酒井 徹)

また、全面体制をつくる上で見落とせないのが八七年に結成された町づくりグループ「竜トピア」である。これは、町内の幅広い年齢層・立場の人達で構成されており、多い時期は週一回程の高い頻度で熱のこもった議論が行なわれる。町内各組織の活動が縦割りになりがちなところで、横の連携を補う役割を果たしていると考えられる。

人と人とのつながり・意志疎通を大切にし、若い考えを尊重する体制づくりが地域おこし成功の秘訣と言えよう。

担い手対策のひとつ「ひまわりパンツ育成基金」が注目される。これは、町五〇%、農協三〇%、組合員一〇%の割合で総額一億円を拠出するもので、新規学卒者を対象に、農協の臨時職員として研修を行う費用や、農業大学に進学する者の奨学金、シターン就農者への奨励金や、結婚して農業を継ぐ男女への祝い金などに用いられる。

表-2 北竜町における有機米の栽培体系と取り組み実績 (うるち米、1996年度)

取り組み名	組織	面積(ha) (%)	栽培体系			出荷先等
			堆肥	除草剤	防除	
有機・無除草剤米	農協青年部	3.15 (0.2)	要素量50%以上有機肥料 (ひまわりヘルシー)	使用しない 除草機と手取り除草	与寮の勤行により 必要最小限	グリーンコープ
有機・無防除米	"	21.62 (1.0)	"	1~3kg 除草機	非農薬による防除	"
有機栽培米	全町	1.784.12 (89.0)	"	1~3kg	与寮の勤行により 必要最小限	コープさっぽろ 空知米穀、他
自然農法米 (特別栽培米)	北竜町自然農法米 生産組合	11.49 (0.6)	堆肥、発酵糞糞、ボカシ肥 ゴールドコーネー	使用しない 除草機と手取り除草	無防除	M O A 販売
準自然農法米 (特別栽培米)	"	3.84 (0.2)	堆肥、発酵糞糞、ひまわりヘルシー 動物有機、ゴールドコーネー	1~3kg	"	"
有機・無除草剤米 (特別栽培米)	ボロビリ	7.57 (0.4)	要素量50%以上有機肥料 (ひまわりヘルシー)	使用しない 除草機と手取り除草	与寮の勤行により 必要最小限	契約栽培
有機栽培米 (特別栽培米)	松本農産物サロン研究会 北竜町C R F 協議会	173.12 (8.6)	"	1~3kg	"	"
合計		2.004.91 (100 但し、うるち米全面積の99.0%)				

(註) 北竜町農協資料より